



2024年2月19日

令和5（2023）年度第6回定例記者会見開催のお知らせ

日時：2024年2月22日（木）10:30～11:15
場所：豊橋技術科学大学 事務局3階大会議室
YouTube：<https://youtube.com/live/CSRvP2aablw>

<記者会見項目>

- ① 集団登下校が交通安全効果を持つことを明らかにしました
～子供の安全で健やかな移動を守るために～
【建築・都市システム学系 准教授 松尾 幸二郎】（別紙1）
- ② 技科大のリベラルアーツ教育がパワーアップ
～人に寄り添う技術者をめざして～
【総合教育院 教授 中森 康之 / 総合教育院 教授 岡田 浩】（別紙2）
- ③ マルチモーダルセンシング共創コンソーシアムシンポジウム2024のお知らせ
【OPERA 推進室】（別紙3）
- ④ 2023年度最終講義について（ご案内）
【教務課教務係】（別紙4）
- ⑤ キャンパスツアー2023の開催について
【総務課広報係】（別紙5）

<本件連絡先>

総務課広報係 岡崎・高橋
TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



2024年2月19日

集団登下校が交通安全効果を持つことを明らかにしました

～子供の安全で健やかな移動を守るために～

<概要>

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 松尾幸二郎准教授らと香川高等専門学校 建設環境工学科 宮崎耕輔教授の研究チームは、都道府県別及び愛知県内市区町村別の集団登下校実施状況データと小学生交通事故発生状況データを用いて統計分析を行い、小学校の集団登下校が交通安全効果を持つことを定量的に明らかにしました。素朴な結果ではありますが、実はこのことは、これまで学術的に明らかにはなっていませんでした。本研究により得られた知見は、今後、各小学校において、より安全で健やかな登下校方法を検討するために役立てることができます。

<詳細>

日本では、小学生の登下校の安全を確保するための取り組みとして、多くの小学校で集団登下校を実施しています。文部科学省の調査によれば、全国で令和3年度に集団登下校を恒常的に実施した小学校の割合は、約6割でした。

公的な文書として集団登下校が扱われ始めるのは、昭和37年の文部省事務次官通達「交通事故の防止について」ですが、地域によっては明治時代末期や大正時代初期から独自に実施していたということを示唆する文献もあります。例えば、豊橋にある杉山小学校の創立100周年記念誌「杉山100年のあゆみ」（1971）を覗くと、明治生まれ座談会の中には、「集合はラッパの音でし、集まって学校へ来た。」という発言が見られます。また、仙田満・上岡直見編「子どもが道草できるまちづくり」（学芸出版社、2009）には、「毎朝、小学校に通ずる通学路には、各村落の存在を主張するいくつもの隊列があった。」とあり、集団登下校は安全面だけではなく、地域のコミュニティ形成の一要素を担ってきた可能性もあります。

一方で、集団登下校の列に自動車が突っ込み、多くの小学生が死傷するといった重大な事故が発生すると、集団登下校はかえって危険ではないかという懸念や議論が沸き起こることもあります。しかしながら、これまで集団登下校の実施が交通安全性に与える影響を学術的に明らかにしようとした例は、ほとんどありませんでした。わずかに見られる分析例であっても、その対象が一部地域に限られることや、データソースが不明確なことなどにより、結果の妥当性や一般性に課題がありました。

そこで本研究チームでは、都道府県別や愛知県内市区町村別の集団登下校実施状況データと小学生が巻き込まれた交通事故データを用いて、統計モデル分析を行いました。愛知県内市区町村別の集団登下校実施状況は、パーソントリップ調査データから独自に推定したものです。結果として、集団登下校により、事故が起きたときに複数の児童が巻き込まれる可能性はあるものの、事故頻度自体が減少することで全体としての死傷者数が減少するため、集団登下校が一定の交通安全効果を有していることが明らかになりました。より具体的には、各都道府県や各市区町村の集団登下校実施率が1%高くなると、小学生の事故が1.5～2.7%程度減少することが示されました。

研究リーダーである松尾准教授は「別の目的で小学生の事故データを詳細に調べていたときに、ふと、豊橋市や愛知県は他の都道府県に比べて、小学生の交通事故のうち登下校

中の事故の割合が相対的に少ないということに気づきました。その理由を考える中で、自分の出身地と比べると、豊橋市や愛知県は特に集団登下校を実施している学校が多いことに思い当たりました。これが、集団登下校の交通安全効果を定量的に調べようと思ったきっかけになりました。素朴な結果ではありますが、今後、各小学校においてより安全で健やかな登下校方法を検討する上で重要な知見となると思います。」と述べています。

<今後の展望>

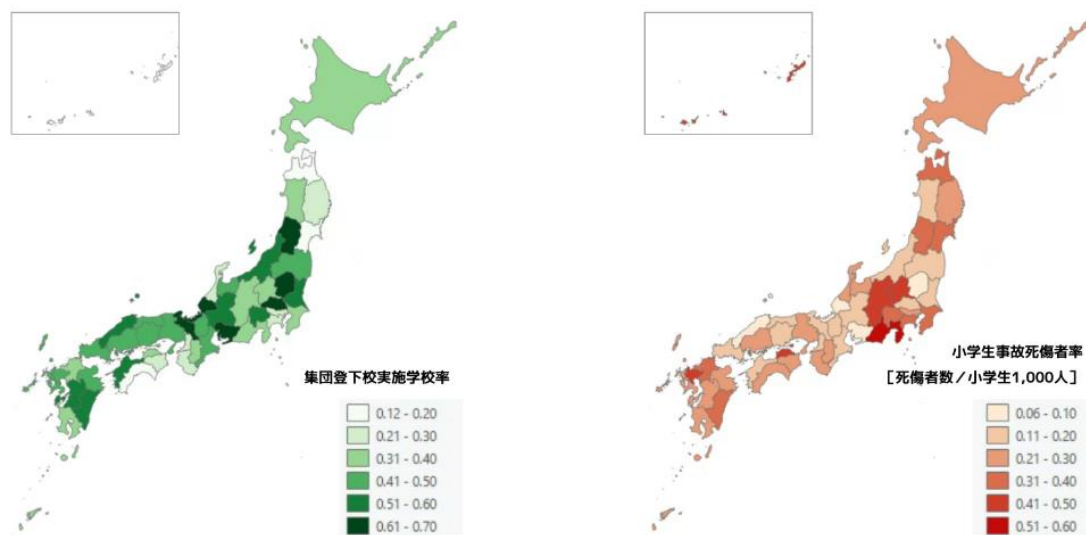
本研究では、各地域により集団登下校の実施状況が異なることで、交通事故発生状況がどのように異なるのかを分析しました。しかし、そもそも各地域により、なぜ集団登下校の実施状況が大きく異なるのかについては、まだ分からないことが多いです。また、集団登下校は安全面への寄与に加えて、児童の社会性育成や地区コミュニティ強化などにも寄与している可能性も考えられます。今後は、各地域における集団登下校の実施に係る歴史的経緯やコミュニティとしての役割などについて研究を進めていきます。

<論文情報>

松尾幸二郎、宮崎耕輔、杉木直：小学生の集団登下校が交通安全性に与える影響の分析、交通工学論文集、10(1)、A_72-A_79、2024、https://doi.org/10.14954/jste.10.1_A_72

本研究は、一社)交通工学研究会の自主研究「子どもの安全で健やかな移動のあり方と道路・交通マネジメントに関する研究」(研究代表者：松尾幸二郎)の一環です。

また、JSPS 科研費 20K04743 及び 23K04069 の助成を受けて実施した研究の成果です。



図：都道府県別の集団登下校実施学校率（左）と小学生事故死傷者率（右）
(小学生事故死傷者率＝小学生交通事故死傷者数／小学生数×1000)



本件に関する連絡先
広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋
TEL：0532-44-6506 FAX：0532-44-6509



2024年2月19日

技科大のリベラルアーツ教育がパワーアップ

～人に寄り添う技術者をめざして～

<概要>

豊橋技術科学大学では、リベラルアーツ教育改革を2024年度から実施します。

まずは学部1年生を対象に、異分野の複数教員による対話型授業「リベラルアーツ入門」（2単位、選択、4クラス）を新設します。「リベラルアーツ入門」は、新しいスタイルの授業です（下記〈詳細〉参照）。

本学では、哲学対話の第一人者である哲学者 西研氏を客員教授に迎えました。技科大のリベラルアーツ教育は、人間の弱さや不安に寄り添える豊かな感性や発想力、対話力といった、高い技術力を活かすための土壌を養成しようとするものです。

<詳細>

- ・本学は開学以来、高度な技術者には豊かな人間性が必要であるという理念のもと、教養教育（リベラルアーツ教育）を重視してきました。
- ・2010年の学内再編により、それまで教養教育を担ってきた人文・社会工学系を、自然科学分野も加えた総合教育院へと再編し、リベラルアーツ教育をさらに充実させました。
- ・再編から10年以上が経過した2024年4月から、さらなる飛躍をめざして、リベラルアーツ教育改革を実施します。まずは学部1年生を対象とした「リベラルアーツ入門」を新設します。
- ・「リベラルアーツ入門」の特徴は以下のとおりです。
 - 異分野の複数教員が同時に教室にいる新しいスタイル。
 - 少人数のクラス編成（20名×4クラス）。学部1年生全員が受講可。
 - 教員同士、教員と学生、学生同士の対話によって構成される。個々の独立した分野をリレー式に学ぶよくあるオムニバス形式の授業ではない。
 - ライティング、プレゼン等のアカデミックスキルも身に付けることができる。

<今後の展望>

〔文理融合の促進〕学内の専門教員の参加を促し、多様な文理融合教育を促進します。

〔学部3年次、大学院への展開〕学部3年次、大学院でのリベラルアーツ教育へも展開します。

〔地域連携への展開〕技科大生と地域の方々との対話の場を増やしたいと考えています。

〔高専連携への展開〕高専教員や、高専生も参加した対話の場を増やしたいと考えています。

市民として生活する中で、多様性と普遍性の感度を育み、人間の弱さや不安に寄り添い、そこに潜む問題を見つけて解決できる、粘り強くやさしい技術者を養成できるリベラルアーツ教育を展開したいと思います。



本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋

TEL：0532-44-6506 FAX：0532-44-6509

マルチモーダルセンシング 共創コンソーシアム シンポジウム2024

主催：国立大学法人 豊橋技術科学大学

物理・化学情報をミクロンレベルで可視化するマルチモーダルセンシング技術の創出

2024年3月1日 金 14:00～17:00

14:00	開会挨拶	豊橋技術科学大学 学長 寺嶋 一彦	会場：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース
14:05	来賓挨拶	文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 産業連携推進室長 迫田 健吉 氏 国立研究開発法人科学技術振興機構 イノベーション拠点推進部長 酒井 重樹 氏	
14:15	基調講演	広島大学 ナノデバイス研究所 所長・教授 寺本 章伸 氏	
15:05	コンソーシアムの概要	豊橋技術科学大学OPERA 領域統括 澤田 和明	
15:15	今後の取組	豊橋技術科学大学OPERA プロジェクト・マネージャー 川合 悦藏	
15:25		<休憩>	
15:40	成果報告及び パネルディスカッション	澤田 和明・野田 俊彦・高山 弘太郎 小泉 修一・坂田 利弥・北崎 充晃	
16:55	閉会挨拶	豊橋技術科学大学 理事・副学長 若原 昭浩	

参加費無料
会場&
オンライン

◆基調講演◆



広島大学 ナノデバイス研究所 所長・教授 寺本 章伸 氏

「半導体のサプライチェーンとせとうち半導体共創コンソーシアム」

半導体デバイスの微細化・構造変化とともに製造プロセスは複雑化しています。これに伴い、製造装置、検査装置などが高額になってきています。また、半導体製造プロセス開発の中心は半導体デバイスメーカーから半導体製造装置メーカーへ変化してきている中でデバイスメーカーからサンプルや情報入手することが難しい状況になっています。そのような状況の中での大学をはじめとする公的研究機関の役割について講演します。

[お問い合わせ・お申込み先]

T 豊橋技術科学大学
OPERA Project Management Office
TEL : 0532-81-5138(担当:伊藤)
E-mail : opera@office.tut.ac.jp
URL : https://opera.tut.ac.jp/

OPERA 豊橋



会場参加の方



オンライン参加の方

2023 年度最終講義について（ご案内）

2023 年度をもって定年退職される教員の最終講義についてご案内します。
一般の方も聴講可能ですので、皆様の多数のご参加をお待ちしております。

<最終講義日程>

日 時：2024 年 3 月 4 日（月） 15：00～16：30

氏 名：中野 裕美（教育研究基盤センター 教授）

題 目：「感謝をこめて～材料工学と男女共同参画と～」

会 場：A-114 講義室 / オンライン（Zoom）

<https://zoom.us/j/97066482975?pwd=amhQaXl2aDZ5dzdJTWcyZ0hBcUJnUT09>

（ミーティング ID: 970 6648 2975 パスコード: 888599）

日 時：2024 年 3 月 8 日（金） 10：30～12：00

氏 名：服部 敏明（電気・電子情報工学系 教授）

題 目：「滴定と私」

会 場：A2-101 講義室

日 時：2024 年 3 月 11 日（月） 13：30～15：00

氏 名：田中 三郎（次世代半導体・センサ科学研究所 教授）

題 目：「超伝導と共に過ごした 36 年間」

会 場：A-114 講義室 / オンライン（Zoom）

<https://zoom.us/j/98786419979?pwd=QzA0anVCZTM5NW82TDlha2lmZkJqZz09>

（ミーティング ID: 987 8641 9979 パスコード: 408481）

本件に関する連絡先
広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋
TEL：0532-44-6506
E-mail：kouho@office.tut.ac.jp

感謝をこめて

～材料工学と男女共同参画と～

女性研究者・技術者の少ない工学分野で、無事定年退職の日を迎えることができました。支えてくださった多くの方に、この場をお借りして深く感謝します。これまで材料工学と男女共同参画推進に関わり、「あきらめない」「利他の心」「チームワーク」を大切に、活動をしてきました。

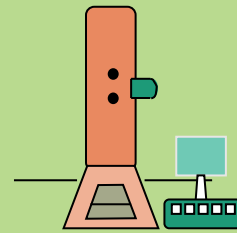
異分野や専門外の方にも聞いていただけるように、感謝をこめてお話します。

日時：令和6年 3月4日（月） 15:00～16:30

会場：豊橋技術科学大学 A-114
ZOOM：ミーティング ID: 970 6648 2975、パスコード: 888599
最終講義：中野裕美 教授・副学長（ダイバーシティ担当）



担当事務：人材育成推進係
ダイバーシティ推進センター事務（梅藤）
mail: syokuin@office.tut.ac.jp



〈プログラム〉

- ・司会 小林正和
教育研究基盤センター長
- ・あいさつ 寺嶋一彦学長
- ・講演 約70分を予定
- ・閉会と花束贈呈 柴田隆行教授



ダイバーシティ推進
ロゴマーク

キャンパスツアー2023の開催について

<概要>

受験生向けのミニオープンキャンパスとして、キャンパスツアー2023を開催します。全国の高校生・高専生とその保護者を対象に、実際に行ってみないと体感できない、大学の雰囲気や学生生活の様子などを公開することを目的として実施します。

<詳細>

- 開催日程： 1日目 3月15日(金) 【申込締切：3月12日(火)】
2日目 3月16日(土) 【申込締切：3月13日(水)】

■スケジュール：

時間	事項
11:50~13:20	学生宿舎見学、学食体験（希望者のみ）
13:30~13:50	大学概要説明（高校生向け・高専生向け）
14:10~15:10	研究室見学
15:20~15:40	教職員・学生への質問タイム
15:40~16:00	アンケート記入 解散
16:00~17:00	個別質問対応

※詳細はこちら <https://www.tut.ac.jp/exam/applications/labotour.html>

- 申込：専用サイトから事前申込受付中（QRコードのリンク先）
申込者1名につき、同伴者2名まで参加可能です。



本件に関する連絡先
広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋
TEL：0532-44-6506
E-mail：kouho@office.tut.ac.jp

令和5（2023）年度 定例記者会見日程

第1回	5月17日（水）	10：30～	事務局3階大会議室
中止	6月22日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第2回	8月10日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第3回	9月14日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
中止	10月26日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第4回	12月14日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第5回	1月18日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第6回	2月22日（木）	10：30～	事務局3階大会議室

コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、オンラインにて開催することもあります。

定例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以 上